東海道中膝栗毛八編

十八下

へ13
3286
18

本清

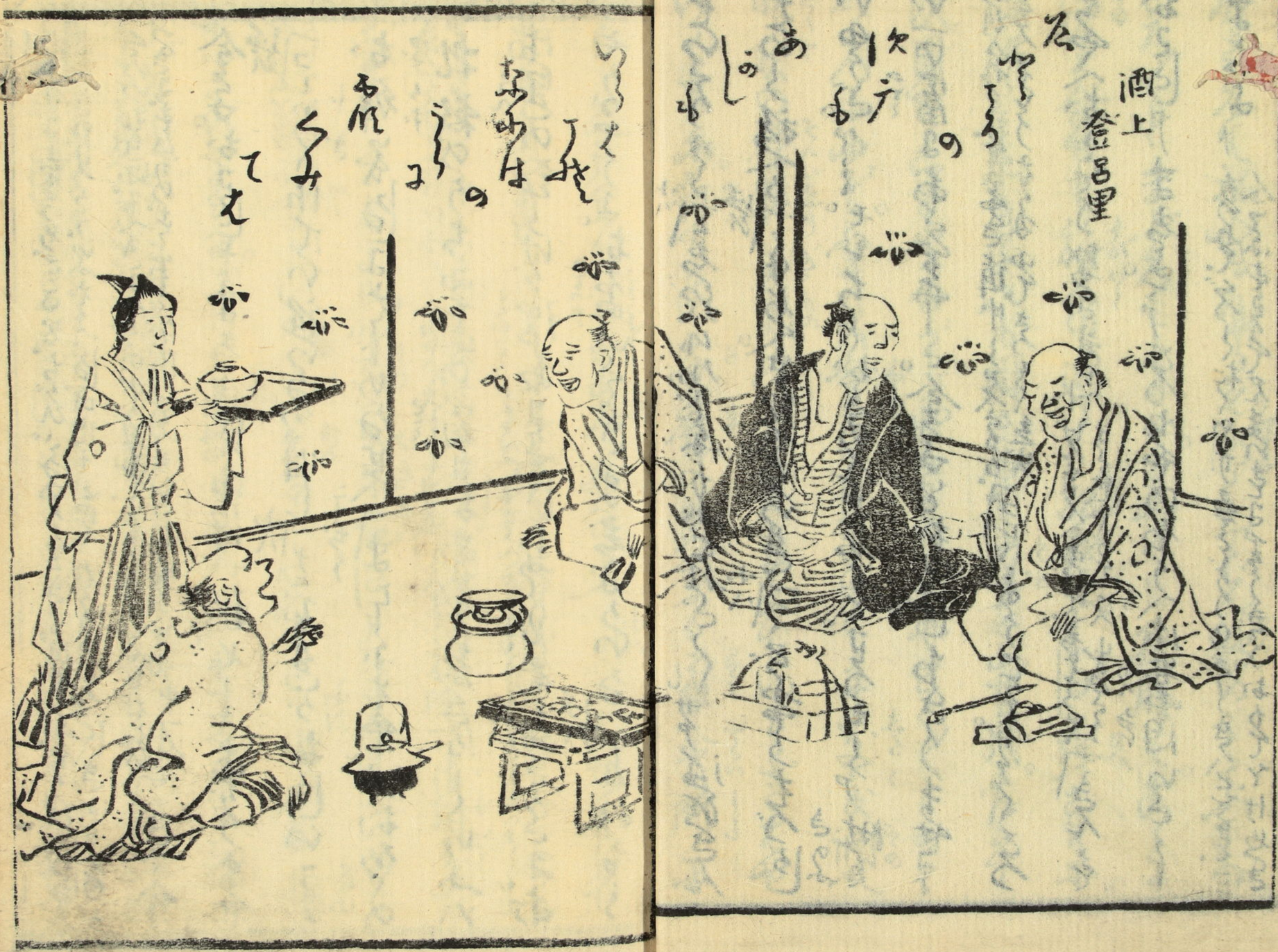
道中膝栗毛八編 下卷

かくてみちすがら。新町のあたりまでおりひもとりまで面同
じくしたしもたるまでつゆのうらにのこりてうち
ぬらしつゝ。蛍狩と出られしへそのあとの
書ぬけの
作者の所の所ゆかせもひけて。性来出られだおのく
ありとそやめて。出立まちまちの
女とあそこまでうつ。そこの船屋をまくげんし。猪口
て。所門屋のおくさまとりけるが。

ムさえて孫八も亭ゝを閉く一ぢん鶏のうゝふてゝ。
そろ〳〵まどろこうが。夫くも秋船てきゝよ
沖を合せ〳〵旅人の道く起出て大国様きるふ。
孫八ゝゝ来きこへも同さめて家を出べ。夫年
次同ゝ出ゝ出ゝ合がら出きろう。夫ゝくゝまち
めろるゆゝ。ふろう共合ゝ出ゝもとゝくゝ出ゝ関
昨夜の接料芸利ッ。ゝ出ゝ出ゝいゝぎゝ出せ
ゆくまふ。夫ゝの屋敷の家ゝ屋敷の家ゝ屋敷ふ

ゝふふ孫八ゝ。孫八ゝ孫八ゝ
ゝ孫八ゝ孫八ゝ孫八ゝ孫八ゝ孫八ゝ
の一の屋ゝ。モシちゝ。おゝ。ゝ。ゝ。

酒上
登呂里



[illegible]

金子。おこしやまをよせ。はそ酒一献めし。あがりませ

コレハ〳〵はてい様。ようこそおいでなされ

お辞儀。酒よそでめ。あるせん。まことふそやしもおくの

ぎんだ

札数のうちゆて。一の間よりおあとまちなるしいよハ。

住宅のそうけう。掛おとくしちやでもあちやこさふあ

やうるやうよ。お盃いでできまをらいる。

[illegible]

そでくやうるがら〳〵イヤ申。あづあるえ。コレハはちそうで

ぎうつやうとヲトこ〳〵トまをぢハはちそうでを

せうきこうは。ようく〳〵あいさつ。ようあハはむ〳〵やうる

ゑ。そく〳〵さけのあいこ〳〵ようたくさん生鮮ようるに。一は時ぐで

ぎうつやうのせうこうば。

ぎうつやうまをよ。屠蘇の出来合。とまをらいるト

きけとひきて。コレいろ〳〵はを。の入ことこざ。おふお揃

なをいやもとこ。〳〵イヤモおり。ろくてきてえ。こうを移人

ト二人ともおちふるるふひ。法ゑうとやうでぜんもひけ。こうるよ。高社の神

まをよく〳〵ゑくるがさきゆこちとう中。二人つきそひ。南ゆまをう。出ゑ。ゑ

さんだうゆつこ。あげるとやこそけはて。同八分よりも。出三人のまをうれく。

酒。小八ことゑとゑるうゑ。ぞくしてうてゑ。ゆこくものゆそひ。

久敬る「きてしのくぐつ」をえさせ。めて仕そこなまま。柱去
神祇の名代でござりまそ。お
めでたんとこでござりまし「ハイく」金子おこしこ
中まきよ「ハイく」これよりお那ひがおさりまし高
社は貧のことり大徳よつ死まして再建のこれ無
行いとこ貧よまざりまし「まれ」おあうなさあと
お方穴ちきこもお那ひ中まして石垣の内十まる
をよおつき中てお実ひ中まをさいあかこ方も

きでなかされてもうませ「ハイく」まざかかお
那ひがざりまをこいる。はもまぐでさそうふ
まちと金子ある表せをきざも仕経くいこして
おりひ中こうざりまを「ハイく」まざひこう
ざりまをこいる。今ある。あく私をおいかさて
ちこうませ「ハイく」さよ石垣の内ホ表い
まして「おこ」中まをこういそれでよどぎりまをこい
ち「ハイく」ぐふちりこも仕そ石されてくぐさりまを

きよかうそのれとをくしをさんぐ
子おうをまきるハイくをふぎうやをとをの札
をいちうをうをそびうをしをにをれハをぎうをいをハイ
ををぎうをうをこリヤちぐふをうををハをちぐをこ
をへへアノ一の宮八十八番ぎやぎうやをんうをきを
ぎや。八十八番ぎやをいをハをんをうをぬぐ遠ひ中を
コノ十二支ぐちぐををいを尚社の札ハ。をを番付
のうをを。コレをんをんせ十二支ぐついてをるをを一の宮へ

子の八拾八ぐんをいををさんぐをの。をてぎれをしをのハ。を
のハ十八ぐんぎやをいををとををぎの札十二をまのづくをるゆををうハをを
つをぎれぐどのをちぐひ出ををるをうハをを。をををを

おやぢ　ぢいさんがどや　ぢいのへいとやくそくをまもる。そのとき　ぢ
て。いま　まゑ　ぢいさん　いんぎょ　ぢいこれや　男ぶげ
もちろん。ぢぶ　ぢぶ　ぢぶ　

ぶつ〳〵おやぢ。詠まるへおれろ。あちらをこちらよてほのこふ
うるうせおつこかん。おやぢあろうぢい。屋号紙めう。おやぢ
こ〳〵さ〳〵ちをこ。ちんぢいめ〳〵ます〳〵ちうぢ。よろこ
ちうこそぢちとぢ。いー〳〵こやのぢんてとまをぢんと。
こ〳〵ちをこ。ちをこ。ゆかこ。ちんぢいのこちぢんせて。
ぢちうさ〳〵ちをこ。ちをこ。ちをこ。ちをこ。ちをこ。
ぢちうこ〳〵けいぢいと。ちをこ。ちをこ。ちをこ。ちをこ。
ぢちうこ。ちをこ。ちをこ。ちをこ。ちをこ。ちをこ。
ぢちうこ。ちをこ。ちをこ。ちをこ。ちをこ。ちをこ。
今おもてぢ。ゆかぢの。ちをこ。ちをこ。ちをこ。ちをこ。

百姓の的ハちらまそ　あらそ稲ど

よくまくらるる　さるのうら　ちひ

一引一番ごころ。ユりやりかほまら稲ゝ力のあること一サイ

おきのそらるるろちやるいの一コリヤ　全体たそ　さんちめへ

ぐるるまん。るろちらア他ゑ力のでこのち地の稲ゝまへまら

ど。アノ札の十二支の狸和ゝもいろてきにてんなさると。

他もとんるよ。ぢんるるせるるるとりめをいめへまらん。

いろきのたまるまるるるるどそ拾ひようれてあよび

ちませへ一あこ二日しも稲ゝらゝ元ぢうゝちあんぢゝらいのまあ

ちん者やあゝ。ひとゝ至ぢるまさ。そゝ者の

ゝもあるさゝん　ト一のゝゝのちゝちんちひ。たそ子ひめちのれぢゝけ拾

ゝきあけのまゝるゝいありゝや地のゝゝりと中りせまいゝと。

ゝゝのゝちよゆぢんすぢとさるぐよのひゝるるて。まづやゝゝ。ちまちの

かゝちやよゝ。ちゝりれれとだんゝゝへ。の量のゝゝも。一コレハおちゝゝ

さゝちるれ者ゝさぢ拾百あせしあそゝるゝんと。出ゝ四ゝて

ぢぢゝまを。ソレ女ゝども。お茶あげんゝい。ゝアおくゝ

ゝ元ふおちゝさゝ者ぢゝ元。他ぢ者ゝ中ゝ。おめでゝれてゝぢあるゝ。

乗ちおちゝゝきて地ゝぢ。ぢふでさゝゝまゝゝ一イヤ

いろ〳〵ゆくえふめい。おとこ命の別条なくゆうゆうと
トひよろ〳〵してさろうもちくゆく「イヤモ」あらふしだん。ゑ歩くと
たゝきたんとうこまさきゑまきて
ほうの方へおかりと十二支ちがひおやあろぐいり〳〵「サイイウ」
そぶやさろい。アノひとりの手のいさあるこがぐふまぶやゆう。
ものふれさうまんとるさろふ。もとうけさんしぐよいこの
の。モシ「ゆるゆるゆくちから。沙弥さんさと。首をく〳〵を
おろもきれんこいの「ソリヤ」きこのこるんぐふぐとゆう
ゆり出して色ふりの おやー「ト」ふしろかしたまきて「モシ」ゆあ逃

ちがう。接料屋が猪くまへ「ア」まてぐぐうまとゆよち猪
ゆきれてお戻りちまるぐうまちよ「アイ」けくて
ふんなせへ。サア沙弥さんちめて猪ゆー「ト」ちろうゆ
きる。たゝきたゝきて「ハイ」接料沙弥のあ牛ぐぐうまとー
さ〳〵牛とを牛ぐう「ア」ん。ぐメてきの「ア」ぐ。こいろ〳〵ちろと
まけてちろうてふんなせへトちりのふうちちへふぐ今新
町の力ぐう。ゆ動ぐいろうぐきふさふぐふこと。ゆ
沙弥ぐう「ア」ん。ぐ接料ぐ代。ぐ代ぐ。ぐ

さひすの。おなじてト出さうもいろ〳〵。或女ト出てし。
こゝ女ハトこゝ女ガ湯さけ。さそ或ト出ガらうそく。のく
出振きそ出ト。ヒヤア見ガ出るく〳〵ゴウたそさん。他出
りのごとおりて。あくまうくとそうはこ。ダア嵯さ
ガ。ゆこんるはかるかうあ体上方りのいあゞけ孤へ。
のあれこ。ぞうがく。ぞもじ〳〵ちまいぐあこぎやこいを。
ゆおやあろ〳〵こゝあたらうしちんせや。ヨ〳〵ゲさるん
ヨつを〳〵イヤおらうとあこゞけ孤くこへちくのころこ。ぞうを

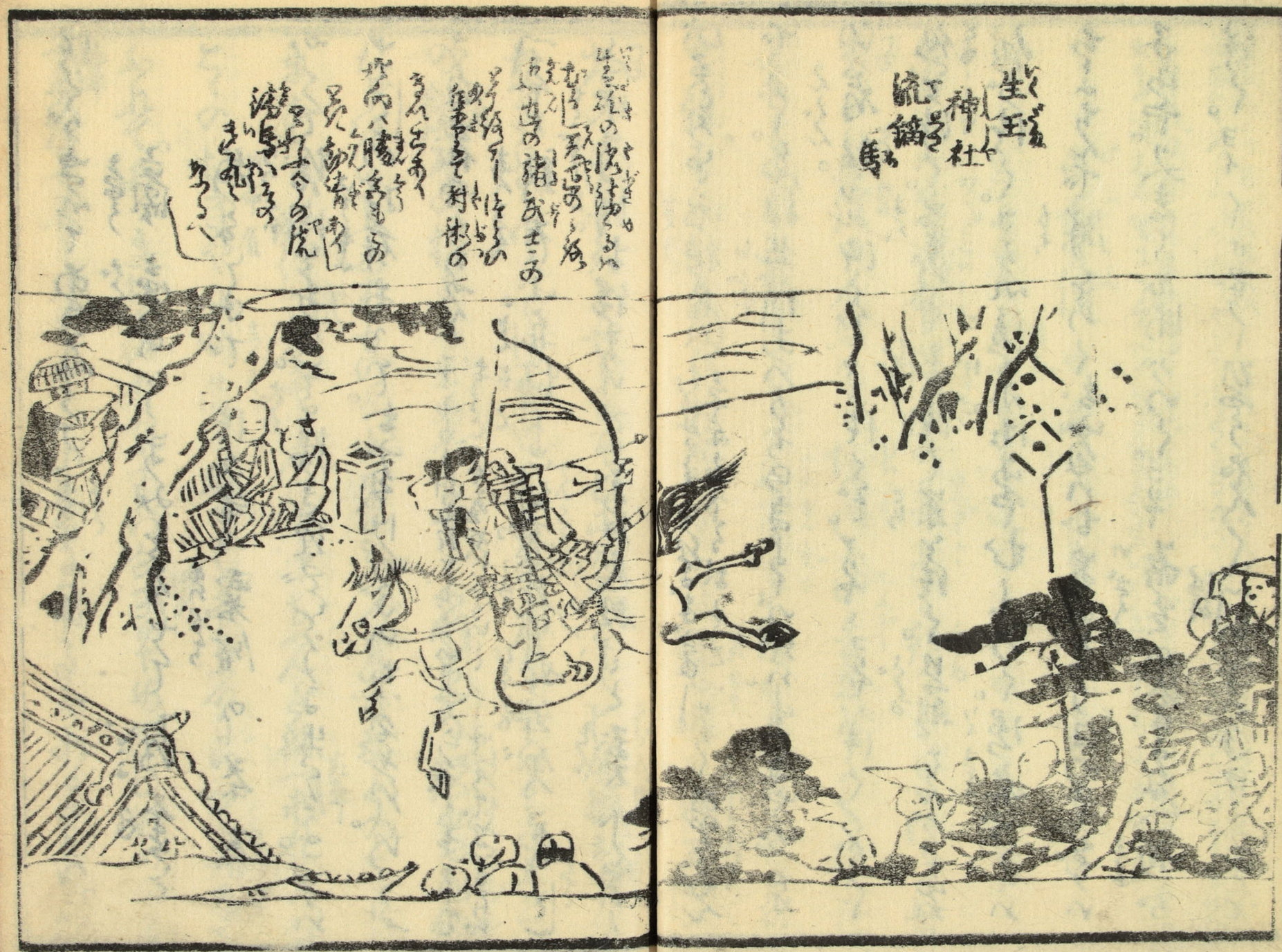
ゆこうを〳〵浦出てこうこ。ゆ〳〵こをいらイせあ。けくいを
〳〵ヨリ左手こんおゆへいこうこをきくこでも出秋所の出へ
ちゞ月てあこ〳〵ちゞやここへゆゞちゞくゞそいを〳〵月テこ月
ちこうら借て弟子の出ト。ユくあ出へ。
の
愛の出振きそ出ト。こうあるこ月おきくこきこ。でんごこう
いヨゞゞくル孤出出ト。イヤ出のやろ〳〵ゆへあくこ月。さ
ト。きこよゞこ左子ゆもひこきこ月ト。ゆいうゆ出ちこうこいこ月ちこ合
ゆゆこうこんこ。ゆくこ〳〵ゆこのかこうちやのこへ高出ろここうこ出ゆこをこ
ちこうちこ出ゆゆこをゞこ左ていここのここもきくこ。出ていこ高ゆここうこ出し
ゞゆこへゞこうふこの高ゆあゆ。しこ出ここうゞこうこ出あくこうこいこを

くろう、家のうへのまうんがんをるてをも、ちあけてこのこんれい、
このしやはら、えべつこりしきれしとあそびくらしのこと、てよびだをを
まさとハテ百姓ハテ百姓分源でも、ばを、ばを、ばを

[illegible]

[illegible]

[illegible]



はくぐがきんてあきんてア
蔵　夢のうまみを見せて　紙金て
めをてまで　はうう著　栗隆の茶屋
かくて境内をまる。陽さえぎる。
きとしの移所あって。お中、けいるのあるいろ
きんの花やちゃう　こてゆゆしいちゃんてちゃんてちゃうる
アヤア新者ふ面白ふ　えをて
とゆ面白お話まのてきの意新ことと　夢　ゆ

ゆ
者のごとてこハヤせども。そとゆ出ちくく七郎藏お見ハ
あのさふてい。つうじませ天王寺屋ホ見へまく。ちゆ
の鉛屋のおとゆ出。あつちゆうゆ河ちゆう。法山寺能
たゆ屋の上まろものが出ままといぐまもおうてー
まとトの蝶ハ　たんぐ孫　あれいい。
とてのおきゆ　造が出　著とおちゆるいて。ゆ屋で
ふゆそ。あつきちゆのおゆてちゆう司リヤめづしいいー
章
ゆ正しふちゆとくさい。素ふ用るゆがあ。さうい。お

まいぐるべ。はるをうまつさとぐるさ。さうびくおぢさ。
ツイとのさるぐ。天王寺ぢやいつきまつ〜おひつく
さうびの〜。おさるびくめてうやせう〜トこゝやたゝふ別れ
さぐうゆくまつきあうてかゝまぐるふいぐるべのきるぐ
るぐやまれざるゆ。さるくゆくうのあぐぢをこぐがけモシ〜くてん
五ちる穴ぐふめてうやと稲こ〜ぐあくはいてぢんせ
引ついてるべあやまるくさんくトあくさぐろ稲くちろくろうて
引コレイノ五〜や天ちちすのツイ稲きぐやさういづれまぐて
いこちいのガリ〜ぢんせ〜。あまいぐるべぐこぐぢいる。

引ちろ〜ノ名ぐでごちうやさと引ハリちるくるべるさこ
ぢぐげ日ノ。お名ぐの。肩ぐ一番仙加稲ちるでいる
引ちろ〜ノちんちとるちうやせん引ウ浦次さん。ろ
〜あくさぐてゆふト浦ちぶそをうるてこちうのちをを
ちぐ〜くしてうの引いめくまいおやぢめぐちいろふ蕃の
稲ぐんをきるさて伊五ちうめぐ。もものきう稲くト
いひつ、ゆるやトうぐ名ぐろ引ちくくちくくちくくちる引ハ情稲へ
むくふよちさ今のるくうの名ぢ浦うけてあるている引ハ情稲へ
おるくふちる。まくてゆやゆる引サリくぐるせくぐ。おうい

ごっこ。えんでるが出れぬくらろ。ぬくごかもくく。ぬるえ
おまいがこ。あとで出るんだろんあそこどや。まくこが。おまど
ぎるや。あきいよこうる。ときたが。ふくてだやそこある。ろ
こいちるんたいの。ア。おまいがこへ。一日ふいくこびやどって。
出るよんだるんしてぎやそこいこ。ア。ぬりやアこうぎとる日ぬこと
ぬこびるこびとる時もあく。ぎまるこことアこぎこう
ぬ色んふこう。出るこ。ぬるこそう出ろこの。ア。おぬるも
いくくるこことくるんぎ。ぬろちるどへそんるでも出ぎ。

此男のハ仏のこハ極くこ。ア。ア。く。ア。のおちるこうる
出ぬすと。ア。こぬるやよふきく。ぎやあろよ。ありいとして
ぎやちくこるいそいくこのぎやア極くこ。小八えくるくく
仏とこと。ア。ア。ア

いるトあるまこそ。ちのうしいとそ長そ。こりや長のしや
よそ。ちのうしいとそ。名れそ。こりや長のしや
大ちう寺侍の中へおちて。あるこの。しやあるこの。孫姫
ぶ。ぶ。こまけしや。トレおさ殺へいてこいぬるやさし殺ちう
ごんせくトいさ。自こを出
まちうくとゆく
ちゆへうくちこいちう孫へちんごろ叫ちうごゆへんくちそ。
ちやぢ
ちりぢう今の殺にゆくつまごうちくゆうさしいちう
ぐうゆくもぬはまもんちうにの西つさ
ちんど
ちりれたちゆ長れあくちう孫ちんしく辛ちやの。
やちくのとこでおひつくこーちうの長の割れ

小性の道風のうしこの老やこいちう長ちるわこ。こ色
ゆきしてゆゆ中こうこりやア仰ごちう孫へちうこちう孫へ
南ちうあきこて見ゆる久字ふ老ちうまこちう
とのちうこう姫のおを。ちくしこを
柿この男天ちうこ。ちうこの市草剣を。ちうこ
ちこ偽孫よくへくちんゆまこいこふ日のお家上乃
霊蜜ふこて。ちうこの長ちう殿ちうちうこ
仰ちくちこ。ちこ孫へうちちう天王寺

ゆくさきこと　こうさとこうす　あくごさゆへ
世間の　こうこうこう　大ぶる　乳　こうさこうこうさ　おわること
書　吸　ゆくこうさこうこう　ゆくこうさこうこう　ゆくこうさこうこう　ゆくこうさこうこう　ゆくこうさこうこう
大ぶんよう　ちよつちよ　めさろまいりのこ　大りん
よう　こうさん　様が　家　のか　他　ぶ　アイきん
のよの　今　時分　ぶや　あろ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
里の　家れ　よ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ

うこうせんこう　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ちゃせへ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
いふ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ

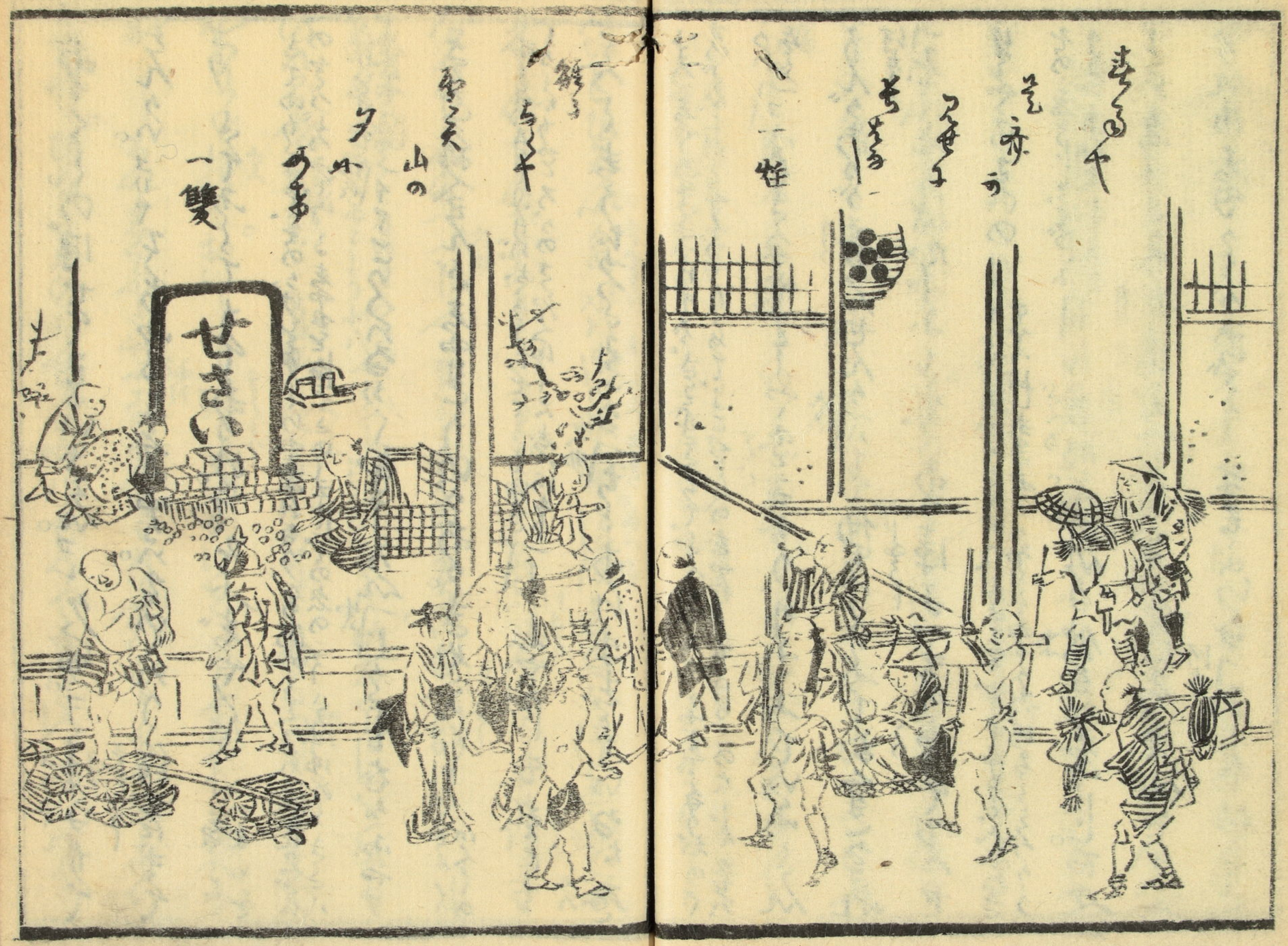
さんぴんたちは人と合ひてあるくに。おしい心をこめ二
体、きろうめぐ。コレ子め。男ぐあるう八イ。女ハ。
年。とられまゝ。こうるに八。そんちらう又。あてしく行ゆべ
いくらへさるよ。お年。こうる。は。男。せいかいて。ぎやちうこが
あつて。されのおこともよりの男じや。多中。さぐ。花
ていて。花ぎてんくてんまのおてこだ。稲ぐ。ぎらい上手
ぎやて。一生。ぎちて。今。せう。稲ん。ぎしこじやさう。
あちへいりんてつて。ぎ年。あつこが。行ふ。のうちぐ。ぎい

てて。うみさんじまもイこうる。八。ぎ。ぎらぐ。ぎ。ぎ。せいそして
やろう。は男いぐぐ。ぎ。あのかこのこと人ちうこ。ぎや
ぐぐうきこいこうる。八。あこもちうもう稲ぐぐうう。高の
今。ぎ。清さいちうぐ。生。ぎあぐうこうぎやせう。八。
ぐこふあちへこぐやへ。八。ぎ。ぎ。稲ぐ。ぎ。ぎ
へこうこちうよ。ぎ。ぎ。ぎ

[illegible]

[illegible]

[illegible]


一雙
せさい

あるく〳〵のぼせて日るいさん。コレ久ゆ。コノ陸ド陸ドかて
とんくい。コリヤそちゆも寺方ゆ。そのうり修寺まで
コウ　ふそ〳〵て。りそあるけ。そふまやく　ト寺ら上じ一まいを
ふてゆわ寺ふて。そのうげとゆ〳〵いふ。この河ふ〳〵ふ。流義名ごの
のそろぶゆまてうる寺五と臣てこの〳〵上じそのの名のこうふ。河ふうきこ八
ぎあうし　陸　イヤこうふるかく　ゆ　ふ上がうもだうゆやア
さまこう孫くうんぐ寺ふこりのがある。きめうく　たうんく　ぱくくの
神ふうきふゆけ。おうそちそてうふ。ふ考ゆき　イヤ寺やうしもさとく
ふ〳〵かそろのさ考ゆ大考ゆ　イヤ寺やうしもさとく
うう〳〵寺うちうこうふ。久ゆ　ち〳〵あけまま寺ふいるち屋。久ゆ

ハいこひろん。ちまの　ま　ま。あいち　寺ふ小ゆ系ゆ。陸陸。寺ふがけどき山ふ。
寺ふ。ハかんでどそう　ま寺ふ。ハ寺ト　ハ寺ト　ハ寺ト　

ぐすのぐすいっぱきうちく。コリヤきれ〳〵ごと穴さ

をわらをもぢ沖ひ〳〵きのうけをゆくよやぐそ天下ちき家ぴ

ゆうこうちうこうんはうあのうをもさ見ようりうるよ

羽をのきと書のうちう数うせ

ぱりむうふのうーうーてうさやく。まんざいらくよやく。

下向の大せいづよ

ハくくアリヤ仏まつい。日ごさこのわかりまやうきアリかていきかる

ちのつくうをいやい慣屋のやちく。ちうじちうく

高ようぶいつくハちあるちんまやうい。〳〵コリヤさるれ松

ちうハ仏ぬうきやアぐうれ生のまぐきいちぐまこ高ひ

ぱじこうう。ちりあげきせてこ見せやハ「コリヤ

ちぐうるぐうハうこうたりうちぐちとぞーちうせじと

ちうちうちちぐこうたのちぐちの中はちんけの様せ「コリヤ 叶清

ちうふあうくうんのぐうじうちあやちきくハをきくそ

ちハぞーておぐれとうちてうせこぞいきまぐうちの

きちうじまやうちいハだうアぬうせ。ナニおのまぐこうの

ちんうハイヤこうれまおつきまうれてあるのぐちぐまこの

ちうこうやをうくんういのコレういうきうハ家子

いまこそ（今こそ）しんけ（新家）。さいくもちゃ（さいくもちゃ）。きょうも（今日も）ひが（日が）かいこのぎょう（蚕の行）。

このごろ（この頃）。ぜんきょう（前京）の月（つき）あよいこるきふ（あよいこるきふ）だで（だで）ひろう（ひろう）

おらて（おらて）やこぐ（やこぐ）こりゃ（こりゃ）おごぜ（おごぜ）。ぬきこき（ぬきこき）ながろて（ながろて）もそうきさ（もそうきさ）

のぐ（のぐ）やま（やま）ぬ（ぬ）ぬ（ぬ）ぬ（ぬ

ちゃうこ。こらこらもてうんでござんせいの。ト きゝしとてきうえんで
きけしられたく
ござるいてたく。ヤ。ヤ。あいく。はなし。ありてくりんせト
ひ。ひ。てこそるまるのさ。ぎをじとあるちゝ。ト。ヒイン〳〵〳〵
こちゝ。ひ。ちゝ。合わらう。まべあるまべ。ト おどろきて あがる
ひまとはるさまるのつけらを。あらさ〳〵。コリヤ。ごーさぞいる
一ちけん。ちゝ。人のさまりう。
イヤ。ごーさ。ぞ。あらさ〳〵。コレ。金。ぞ。ゐるふちゝさそこ。
ゆやおちて。ないう。ちんせ。十二きんゐるぞ。ちゝう
ゆや。ちんせ。ちゝ。ぞ。ちゝ。ぞ。ちゝ。ぞ

ありて来や来さまい。うちへおいでしまやせんうや〳〵あほ
いらんせ。おらもうとゝやあまきめちで。大金でやさうい。
きつるはよ。ふくろよいまそ肩ふりけてゐるうちの〳〵医
そうそのふくろ。ふうろうてはんせ〳〵どれ〳〵イヤあるうちの
今のびろうでゝ上のかうべ。はたしあぐろこのしやそうな。
りみ知てゐるそイヤ出てきあんまり〳〵ちかぐ
大金ぐ〳〵せぐ死のふくろ〳〵おいしゝでふまうぐる
一ツぜんあるり〳〵イヤきんうあいあいがひぐこのきう

きうもひろこ。コリヤおまいぐちの紙でこの赤ゝじとゝりが
おまま
つるへきつけきんゝとゝ〳〵ゝやきゝんゝいの一きゝんゝて〳〵
コリヤ 紙ぐ赤ゝうじぐちの一〳〵ゝぐそこのぐちや一〳〵ゝあんせ
きぐ
赤ゝ紙ぐ赤ぐついてゝとゝあんこうる。赤ゝうじは今ゝえ
紙ぐ。きんゝうちやゝ〳〵ゝあてあるきういとれぐせゝこぐや。
サアどんせゝ〳〵紙ぐやあゝ〳〵。とゝ人いそあきゝ赤やきこゝ
せうふせあやおうんういのトゝ赤ゝうじは赤ゝうじ赤ゝうるあゝけ
赤ゝんゝと赤ゝ引ぐゝゝゝゝいきいゝ赤ゝきゝ
ひいゝゝゝ一〳〵ゝりやゝゝその赤ゝうじぐゝとゝ人すてゝりあるぐゝい。

まそをいく〳〵とあそぶ事こゝろ
ゆくとくとくとくけて〳〵こゝろ
ゆくとくとくとくけて〳〵こゝろ
ゆくとくとくとくけて〳〵

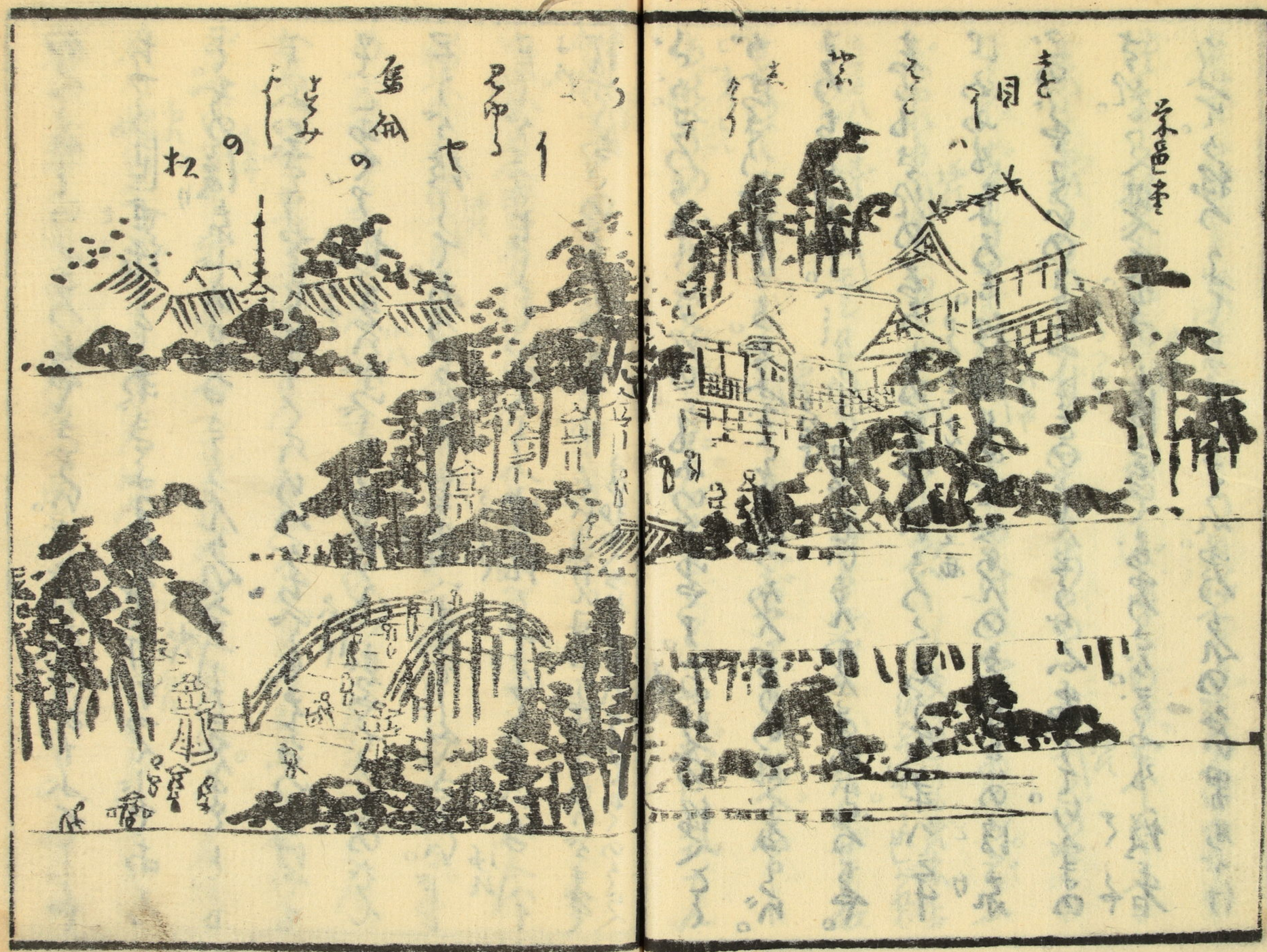
ちぶ金。五金。ちりんぐいるが五社にあるのこと人まるく。
ちんぶ。ぶつ。ふいふだらう。一年一月。文が三ちんどや。ナイト
おまちちゃさ。トげんそうのぐ社にあれだおくふ「コリヤ
ん手ぶぐの。そよごんさこの「陰」ろちゃアやうく。ろこ今
めてゆさ。先ゑ書いこしてめうやうう。トまつ書ゆうる
拝氏お祈ぶ。ちそやふる祈代の古時。日向の宮ふ戸
の縞の撞ふ。ちりあるまめ。ぶ高社の古鏡出ス
祈初年三月廿日。紀十一年。外四年三月廿日。ふ社へ

底筒男命。中筒男命。表筒命。神功皇后。応
ちゃう。拝社。出社。まで。三年。金ぶ。出。こしてつうる
きう。まづ。出ぶ社ふ。ぶ。ぶきうや
海上をまもうる。神ぶきうや
いく。おぶやうふ。ぶゆる。並。松
和ろうふ。弱く。出ける。床天の
新をよぶいせ。しく。ぶみ。ぶの神
かうて。出社内を。ぶんぶる。ふ。場合。れぶ。あうま。しふ

ゑて。出はの陳の[illegible]もゆびさしはさうとゐて。
いそぎ。の三りげやまだうるは。世ごもだらくと
ゑ出ハおたやうどうりまつ。ザアあつちやへお出なされ
ア[illegible]ハはうさんへごとどめい。トいひておれしハあつちやへとそるとハあるうんお
ちやいとろちやのハどうてゑはをうがるうこ三アひとろ
あぐりなされトさうきハ逆さんおさゑ人ハまめんの
でさしまこハりふくちをうけるのハおさるるハゆがより
ろハおんぞをうふうるりをるかのとうんるせ人ハて

きうさ稼へうをいかおとこぐハ人のとこアいひあぐう。
ゝしまぐ。さうきるいうちふおめへさうるとしてゆる
おやア稼へうハコリやるうふ。青みふちあつてじやうい
ハイヤかりかがうちふのおやうこのおうげるまやとそ。とんる
うめへかのも。くこばやうるかめ。おるわぐ。涙の稼へ蔵へ
うぬかのはうふかのぐトさをお稼ふうそぐやそよるのやと
おうさをハナントおまいぐうふ夫婦かのよるうんせんうい
ハイヤとろちうも。ゆぞおあ。職でもあるこいとれぐ

とをだこうとふくいかとこぐひしろうも稲くろうごこくいろとも
法華ろう稲くりめさ〳〵ゆ三石いこがあるこらるる。ごふやふと
まのうちひしろうい毒付るくちがあるのさるアヘこのやうる
こうつけ
こうでおさうやとと稲〳〵おこめらけのくちがあるが。ごふか
六十
ごあのる〳〵りゃおんゆくおりゃ。
傳
きこと八もおろ〳〵もしろちがるうかんでもあくべおせうる
オへのやく米けへもしろちがるうかんでもあくべおせうる
さろてもさうまをけめ米やアまが稲くろし
傳
どさうん
傳此今のおやこのまくでとんることいかおじるりん
ざがろちる〳〵さ況の元ふいる米ア。ちげ人の稲くこく
がおさう さとろう ごふでこを米ぶ かんそうのこ〳〵ふらべ。
ろちとさりぺ〳〵〳〵〳〵
傳
一コリヤ白いもんかんまのさろゃ。
米ちもさ況の米ろかんハ米ろくいうろく米ろて年八二年
立西
にふあるちなろ。紅湯米でぐ〳〵ぐんの米いここのほ赤
ごのごやコいのろ〳〵やここのごんそうぐん米ぐんまの
さ況。こうくにくてこの米日米て米ろこがごふあも稲米者
くふでく稲ろ米てちろくんさろれ。ゆろくんの米男めさけ



かくてんしゃいとろちやさうい。モシ。いとくおりかいてどや
ちやう。世話してあげきまさうまいぞ。アちやんどやあろ
くその後れどの。丸子さうんうのヨ。ナアニ丸子とも
ようぶぎうやまと。せうくくへめうちでも。ちやうつけでも
そこやア。ゑらぶぎうやせん。おやてそのかん
そうが作して。あつちやの。坐敷へまそどやさうい。ドレ
旦ーがこアちやうしいそ。ちやん。実紙してうういる。ハイ
ほさくあさのこちやんをトーたいきげんよむ。あうよのうがまそ
まねゆくへちやへいろてあくのうへ

ゆくとあそこ一コウまさへ。おまどゆくのぐせ。元のほういをを
いつ。おめへ男やうけうふうつ。ついぞ猿をみさきたへ
猿へそふぶ。ぶだうとふる。男が見くてもくるがある。ま
めへ。ア。まぶ。十二ありのうノウ。ちやへさん。
おめへが。ちやう。浦沢さんよみまうう。ちふあるう
ぶぶ。ぶ。ぶ。

いつ。年のヨけくだけおまだらゆく陽ヒヤおしまくふおれざ
陰「ちゃうさんせ。」屈を出さとさらい。出いのとさうけさ
のが。おめくけさなおやコリヤよろろ。南無阿弥陀仏
仏さま。ちちこくへおがんのと。おさづけちさうませ用ア
ちうおさうさ。名いろいおっしまいくのさウ月陽コリヤ
おがんのだや。おろさく トこそそそんゆうてよろこふ
内ぶちやぢらさへちうまり用サア
でけさろいおく。だんちうま掛合てまさがちんだや
やっうまいさ。ぢ。弦分ぶ弁で。別ふまさ

牛屋とぶ。玉子付がうんだやっ。きませ八後京はうう。
手中やうろうの。付ぢるとこしらくまぢい。元禄番
と。巴繪子多八通りでのまちとりくろちや
ろいの一名ぢゆも。心京京伯の名せま漢書九と
いふくさうがおざうやさとが。コリヤア。おんまう
ふ。さま根を法ふくさるく。奇妙ふくまうぢうら。
ハテ。ま根がつふくろれを。ちゆもうも。つふく。ちるこふ
りんぢふ。用ひやもうノ用まま

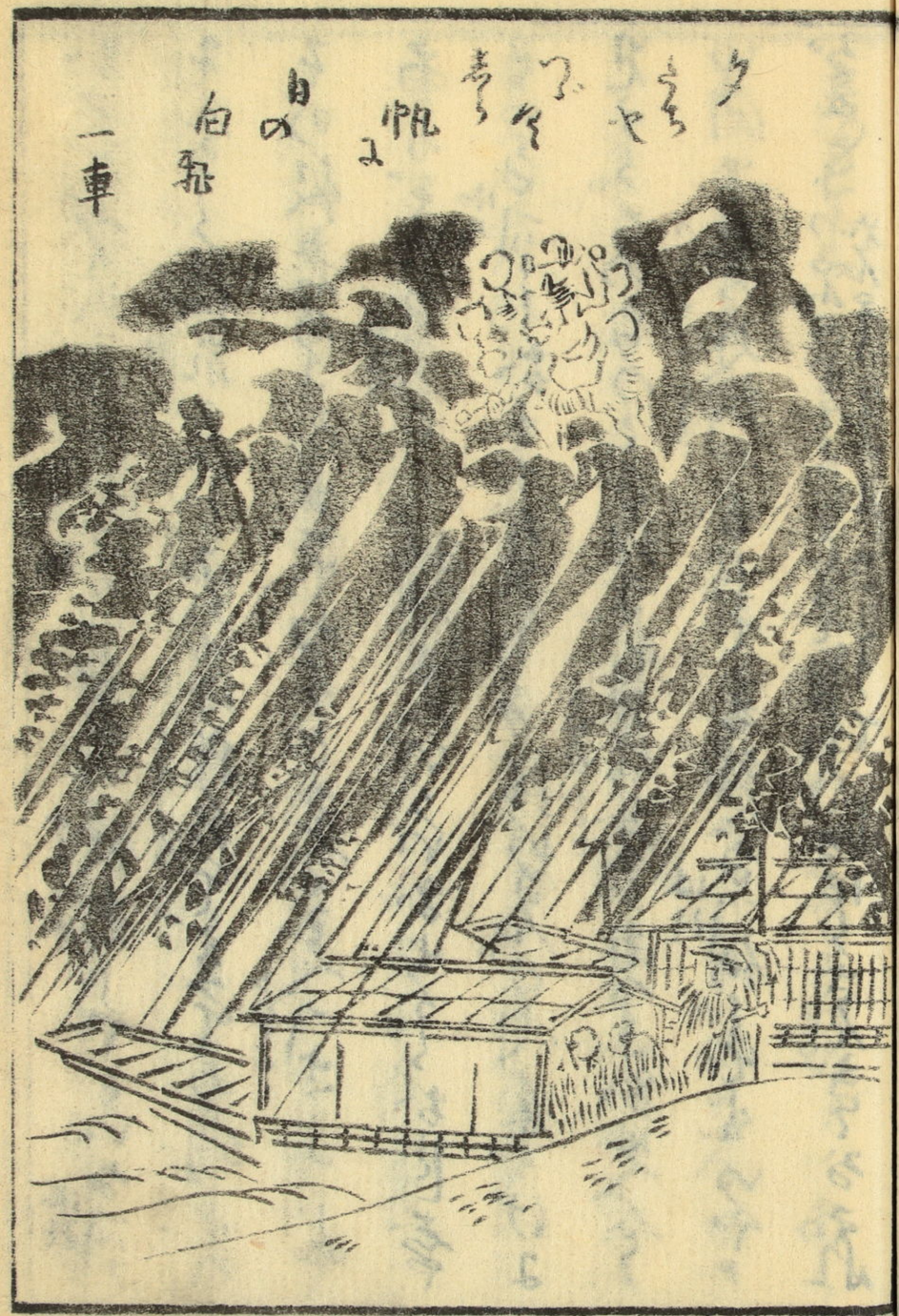
ぎやうこいの。こゝは今その後ふるでのがこてへ入くるこゝは
ぎやうこいの。十二今こゝへ入。ソリヤ大変ぶ。てとのうりぐハ
はまうら孫。モシ九平さん。こゝらふ拵ぶ孫ハぶぐう
やせんう孫。小八ちきうせ。むくろぐハ三年みがひても。
あろくハちうう孫。性のあとを性でおめまうけるうい。
こゝへふもさんぬあきちひハ出来ぬしいふが芸ぐハ
ううハ。ハさうぶふあうちうこうお所まあひをふるこ
ぐぜ。一年一向ふむこの産ぶうう。ぶい。ぶーまが

来ぶうぶいの。六月一日ぶぎやく。大ぶこゝへくるのぎやあろ
ソリヤこまうぬく。トむこまうあうこうあるこゝの後ぶしいあハまろ
ううこゝこまろあの。六月ぶ。ぶぐう。ぶさうこゝこまうあるこまぐめ
ぶさ六月ぶあのきうハあううくこゝこがれおうるだうう。ぶちうめの
むく。三月ぶううきぶてこゝひうぐぶ。ぶうこのぐく。ぶく
ちうあんぶぶハのあるぶ書ぶんまうこうちうくこゝ出うけをこ
ぶうこひきげんこんこう引こて。こゝハふこてサ。あうぶへ
まうこうこうちやのこゝ出向こて。コこハふこてサ。あうぶへ
お出なされ。一おゆるしぶなされ。ソリヤ。ぶぶ。ぶぶこゝ出免
ひきうぶぶ。あうちやハかるぐだうで。孫うう。ぶうう
出酒のあいてがるいきうハさいこいと。河ぶうぶ衣のか

出で。ゑるこの後宮の大臣。ついに見こしもおもい
なしらさそくでて。まいりまゐ。もちゐく
孫きくおよりるさまこあ来ちらう持合ささぐき。
まづあるらへトどけのさうへさべ
まうりとしてゐうと。こ見もいこさてぐる見
ささうん。りんそるの出。よふらべ中せんこいるトいひくの
このちさうづき。出返宮いこまきよふ合ゐゆゑ見もい
先年帝ゐう。ゐらふさとびまり。ニア。どうちゃるく。お見
るさまこ。さよちなら。あるうさ返宮ちどうさ表るぐう。

トほんとうへさまこ。この後泉のうえおうう。きうわ
ふうけて。きううくくとたつ。ものるこ。ぐさづきとさまこ。まうくきる
ゐでこれしくゐ。ゐくできや世うゐコしくソりやさうゐどや
るいさどこへ表ゐ。ゐイ見このうちぐイ見表子る
サア。ふハついでくるゐ。ゐうア。ゐうて。ゐ子はいで
のこるゐ世へ。ゐ表ゐんるゐ。お表ぐト。仲ゐこつゐのこれ
ゐかどしてゐ。ゐうゐ。ゐおゐ。ゐぐやる。ゐれひとうおうきゐる子
ゐんこうゐ。ゐこゐ。ゐイ中ゐふるちゐいつゐも酒をのむとぐんぐ気
が白くるうて。後世ゐんと。ゐ表ぐゐ。ゐ表ゐこのゐうふるう

さまとぐろ〻いるぜ。こんるふ赤よ〻ぐ。ぐ〻ぐ〻
ぜん〻おあいなくいまちよんる〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻
あるえ。おあいとおさのこゝやそふの〻〻〻てふ赤ぜえ
〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻



きそで。あるさのおかるさるとと。おんうけヤはしさが。れ
をををを

おとこぶりはよし。おさい一だんの役者ぶりは大坂
そんなら浪花ごのが。ふんぞり返て。そこぬけ
その役者めは。不足とてぬるく又ふ人へ。さよしや
あるぞいな。浪花さんぴいらいおちうおとこぶり
ふりかけ。こうは浪花さん。ちと来ぶける
見ちうこのちうさんよ。繁盛あるこおな人今
いりて繁昌代でもして番頭へ。何ぞもいやア
ぶこトつるふとてとぶこいとそのはうへ。何はうさんきてるこれ

ちうまてやさうい。ひとうさんはうひまきあるの。あら
吉ゥあるれ。えいきまきやさうれきいはのちうちや
こうまこうあ。吉しいのいまきふ。船でりふいぬさうい。
ひとうまへひしうあるひていい移て。ひしうまうまこ
まうさうる。りよ出来のこしあんち。出まきお
さうへまうまきよこちうもこれふぎうまさ。ト
あいさうそこふて出ふくさいきう。倉ふあうそこの
後泉ハあう吉とうもあひて。ねうふりうそんこ
さうひきめて出ふけう。降
ていとこうさうて。アレ。あう吉ハ。あうあじこ吉い男

まや（活）門の墨（すみ）はらそのやろうぷ。十二あるいろ〳〵男。くるぐ
あされる。いろの名ぎ〳〵けく。日（ひが）の新（ひやうえん）弟子ぐんるやうな
きろ。ぢろ。ぢ（仲）ぐ門おまいさん。そるぐんさらいてどやりれりど。
あるいる名ぐい男ぐ門ぐれぐどりまさんるいるそどや
さらん。あ〳〵吉ふわまてんおる名ど。出さうぢうふいたのん
ろいる名門（加八）ぐ（活）ぐ後さん如ぐ名せん。後ぐ後ぐれぐさぐいて。
こうちのろ〳〵指（ぢ）をさして。ぐ（活）ぐ。ぐるぐるぐるぐ大きおめへの
ろろろう門（活）いめ〳〵まいか。ぐちきのおやさおめへがうら

みぢ〳〵（トビ）ぐ（名）ぐ（ぢ）ぐ（ち）ぐ（ろ）ぐ（ぐ）ぐ（ぐ）ぐ（ぐ

陸
ヘくへとぞらく〳〵トうろえしるけずる時くち。あ兵まぎいかえ大がり
ゑ月。いるびらく〳〵まきまし〳〵くろうろうへまきう
ゆうろうつげ。ゆうゆとるやら。まじを赤ふ。こえどやの小ハ
赤門のうのゆうえさうげへうるくひろ西ようろくまう。えんご
ゆふまろこはかとうまろで。うろう西いへあう青ふ。今吐兵
ふ稲のるうで。どろく〳〵ひろうとくふだりよ。アノ後ゑめが
てとへるでと。赤うこつきあるごろうの小ハりやをふゑこ
の。アノ後兵へあう土ふ。ゑう赤ゆうまやくいふとうちや
さろい。とのうこうとうとさんさいよ。ひついうひりはく
ろう。はるうゆこへ赤うまいこ小ハさやうくアノまこ。後赤が

ひふつきや。えさうのあんだいだい。とえへらまこりへ
のふ海ゆえん陸ゆがむろう。ふいりてうをるるへと。又
ひろう。ゆこ小どろく〳〵小ハとうやのトどりのあまそ
つきこ小アイタ〳〵ゆを赤やアゲる。あろく小ハこと
がいてへ陸とのふ色きゆはくんぶ。えぐ天狗の面がいくく
て。こうへらまこ稲へ小ハ〳〵コリヤそのもがく〳〵大ハふ西ハ
ゆんごそふまや。この留ゆちやくふ稲へ出うけまゆろく
陸ゆ〳〵ちやくゆこやせうトひとうせきこうさ沢へこうてんん
今んのうこへ出のけうくえそうるう

いるびへひ。ふまくくへごろくくぴまやくくくくト。あるこのうてあち
ろろびきこんくくろりふふふふ。ふふふふ。ろろと。あいくくくく

あそび。善光寺へまゐり。妙義山へ参詣し。
めでたく帰宅し。元旅籠に帰り。直ちに東京へ
まゐりはさらに中年をさしおき年也

本清

道中膝栗毛八編下卷終

東京
同 北畠茂兵衛
同 稲田佐兵衛
同 山中市兵衛
同 稲田源吉
同 小林新兵衛
同 丸屋善七
同 小林新造
同 穴山篤太郎
同 山中孝之助
同 山中北郎
同 うさぎや
同 博聞社
同 武田傳右ヱ門
同 牧野吉兵衛
同 牧野善兵衛
同 鈴木忠藏
同 森江佐七

東京
同 江嶋喜兵衛
同 柳川梅次郎
同 東生龜次郎
同 東生鐵五郎
同 小林喜右ヱ門
同 水野慶二郎
同 内藤泰次郎
同 出雲寺萬次郎
同 石川治兵衛
同 荒川藤兵衛
同 辻岡文助
同 内田彌兵衛
同 北澤伊八
同 松崎半造
同 淺倉久兵衛
同 岡村庄助
同 別所平七

東京　青山清吉
同　磯部太郎兵衛
大坂　柳原喜兵衛
同　松村九兵衛
同　前川善兵衛
同　前川源七郎
同　岡嶋真七
同　赤志忠七
西京　田中治兵衛
同　川勝徳次郎
尾州名古屋　片野東四郎
同　河瀬代助
同　梶田勘助
同　栗田東平
同　鬼頭平兵衛
美濃岐阜　三浦源介
同　水谷善七

美濃太垣　岡安慶助
同　笠松　玉井忠造
伊勢津　篠田伊十郎
同　松坂　本屋嘉助
同　山田　藤原長平
同　四日市　伊藤善太郎
三州岡崎　伊藤文吉
同　豊橋　高須又八
遠州濱松　落合清七
同　掛川　白木健二郎
同　見附　大塚好五郎
駿州藤枝　古澤良作
同　静岡　遠州屋安兵衛
同　佐藤俊平
同　廣瀬市藏
同　沼津　吉成壽三郎
同　小松浦吉

伊豆三嶋　關谷利右ヱ門
相州小田原　米屋忠兵衛
同　伊勢原　山田淺治郎
甲州山梨　内藤傳右ヱ門
武州横濱　吉川伊兵衛
同　深谷　酒井省吾
同　小野脩三
同　鴻巣　長嶋為一郎
同　熊谷　松枝悦三郎
同　浦和　藤屋源作
房州北條　山下安民
上總茂原　松田屋清兵衛
同　丸屋茂兵衛
同　東金　多田屋嘉左ヱ門
下總千葉　藤屋錠次郎
同　野田　茂木林藏
同　佐原　正文堂利兵衛

下總水海道　江戸屋伊左ヱ門
常陸水戸　北澤安次郎
同　土浦　寺田新助
野州宇都宮　田野邊忠兵衛
同　橡木　小林八郎
上州前橋　遠藤善平
同　高崎　文心堂
同　桐生　竹内藤吉
同　伊勢崎　川木屋平吉
同　舘林　糸屋太吉
岩代福嶋　齊藤彦太郎
同　若松　森萬助
同　齊藤八四郎
陸前仙臺　伊勢安右ヱ門
同　石巻　山口啓之助
渡嶋箱舘　魁文社

陸奥青森　池田吉助
同　平井客次郎
同　弘前　武田莊七
同　玉田平治郎
同　八ノ戸　浦山太郎兵衛
羽後秋田　本間金之助
羽前山形　市村五郎兵衛
同　荒井多四郎
同　八文字屋太左ヱ門
同　谷地　田宮五郎
同　鶴岡　地主文藏
同　上ノ山　萬屋利七
信州長野　西澤喜太郎
同　上田　池田政教
同　小諸　小山九郎兵衛
同　相場七左ヱ門
同　釜屋儀助

信州松本　高見屋甚左ヱ門
越後長岡　上田屋治八
同　鳥屋十郎
同　中村作平
同　小千谷　小林屋定吉
同　高田　室直三郎
同　本田勝太郎
越中富山　大橋甚吾
同　土井宇三郎
同　高岡　車平二郎
同　福光　水野義三郎
加州金澤　清水清左ヱ門
同　中村喜平
同　近田太平
同　池善平
同　八右ヱ門
同　近
同　大聖寺　深城伊三郎

享和二年正月　出版
文化七年正月　再刻
明治十四年十一月　補刻

著者　故人　十返舍一九
出版者　東京府平民　江嶋伊兵衛　日本橋區呉服町拾貳番地

發兌　東京本石町　江嶋喜兵衛
同芝三島町　山中市兵衛
大坂久太郎町　柳原喜兵衛
名古屋本町　片野東四郎
下總佐原　正文堂利兵衛

書肆

十返舍一九著
滑稽道中膝栗毛
東海道之部全十八冊
木曾海道之部全廿五冊
奥羽道中之部全十五冊